

科目名	臨床運動学						
担当講師	野中一成						
実務経験の概要	理学療法士。医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

健康人における基本動作のメカニズムを理解し、各疾患特性に応じた動作観察などから臨床推論に必要な考え方などを学習します。

学修到達目標

- ①一般的な動作におけるメカニズムを理解する。
- ②疾患特性に応じた動作のメカニズムを破綻する要因を考えることができる。
- ③観察から得られた知見から問題となる要因をまとめ臨床推論し述べるができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 臨床における姿勢・動作分析の目的について |
| 第2回 | 基本動作のメカニズムと阻害する要因 |
| 第3回 | 基本動作のメカニズムと阻害する要因 |
| 第4回 | 歩行のメカニズムと阻害する要因 |
| 第5回 | 疾患特性による姿勢・動作分析（運動器疾患①） |
| 第6回 | 疾患特性による姿勢・動作分析（運動器疾患②） |
| 第7回 | 疾患特性による姿勢・動作分析（運動器疾患③） |
| 第8回 | 運動器疾患における治療戦略（評価・介入） |
| 第9回 | 運動器疾患における治療戦略（評価・介入） |
| 第10回 | 疾患特性による姿勢・動作分析（中枢神経疾患①） |
| 第11回 | 疾患特性による姿勢・動作分析（中枢神経疾患②） |
| 第12回 | 疾患特性による姿勢・動作分析（中枢神経疾患③） |
| 第13回 | 中枢神経疾患における治療戦略（評価・介入） |
| 第14回 | 中枢神経疾患における治療戦略（評価・介入） |
| 第15回 | まとめ |

評価方法

課題レポート

教科書

プリント教材

参考図書・文献

理学療法臨床推論，臨床運動学，症例動作分析，脳卒中の動作分析

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

基本動作を阻害するメカニズムに関して復習しておいてください。
※上記予定は進行度合いに応じて適宜変更する可能性があります。

科目名	栄養学						
担当講師	田村千弘						
実務経験の概要	管理栄養士。医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

栄養の基礎知識を学ぶことで、疾病者・障がい者の栄養状態を把握し、より効果的なリハビリテーションが実践できることを目指す。また、学習内容を深めるために病態や疾患別の栄養療法について演習を実施する。

学修到達目標

栄養の基礎知識と、リハビリテーション栄養についての知識を習得する。
リハビリテーション栄養を実践するための栄養療法を検討できる。

授 業 計 画

- 第1回 リハビリテーション栄養とは
- 第2回 栄養素の役割①
- 第3回 栄養素の役割②
- 第4回 リハビリテーション栄養ケアプロセス
- 第5回 主な病態の栄養管理①
- 第6回 主な病態の栄養管理②
- 第7回 疾患別栄養管理①
- 第8回 疾患別栄養管理②
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

筆記試験

教科書

リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎(医歯薬出版) 必要に応じて資料配付

参考図書・文献

リハベーシック生化学・栄養学(医歯薬出版)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

栄養管理とリハビリテーションの関連について学習します。まずは自分の栄養管理が成されているか(毎日の食事)がどうかを考えてみましょう。

科目名	摂食嚥下学						
担当講師	阿部信之 中嶋奈津子						
実務経験の概要	阿部信之 : 言語聴覚士, 医療施設において言語聴覚療法(成人領域)の実務経験を有する. 中嶋奈津子 : 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義/実技/オムニバス						

授業概要

摂食嚥下に関する基礎から応用の理解を深め、摂食嚥下障害に対して理学療法士が可能な治療との関係を理解できるよう学習する。

学修到達目標

1. 摂食嚥下についての解剖・生理について理解できる。
2. 嚥下障害患者へのアプローチについて理解できる。
3. 嚥下障害患者への他職種による連携を理解できる。
4. 食事場面での姿勢調整について理解できる。

授 業 計 画

第1回	摂食嚥下障害の総論, 摂食嚥下障害の解剖	阿部信之
第2回	摂食嚥下障害の生理①	阿部信之
第3回	摂食嚥下障害の生理②	阿部信之
第4回	摂食嚥下障害への介入	阿部信之
第5回	摂食嚥下障害患者の栄養, チームアプローチ	阿部信之
第6回	摂食嚥下障害の概要と評価	中嶋奈津子
第7回	摂食嚥下障害患者に対する理学療法的アプローチ①	中嶋奈津子
第8回	摂食嚥下障害患者に対する理学療法的アプローチ②	中嶋奈津子
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

評価方法

筆記試験

教科書

必要に応じて資料配布

参考図書・文献

摂食嚥下リハビリテーション第3版 医歯薬出版株式会社

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

多職種連携論の言語聴覚部門と解剖学, 生理学の復習を行って講義に臨んで下さい。(阿部)
解剖学, 生理学の復習を行って講義に臨んで下さい。(中嶋)

科目名	薬理学						
担当講師	ハサン アリフ ウル 小原 真美						
実務経験の概要	ハサン アリフ ウル：医師。病院において実務経験を有する。 小原 真美：薬剤師。病院において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

投薬治療の必要性と各種薬剤の効果や副作用、リハビリテーション実施時に見られる薬剤の相互作用、薬理学からみたりリハビリテーションにおける薬剤に関する注意事項などについて理解する。

学修到達目標

1. 薬物の種類、特徴、作用機序を説明できる。
2. 薬物に対する生体の反応を説明できる。
3. 病態とその薬物治療を説明できる。
4. 薬物の相互作用や薬物動態を説明できる。
5. 服薬の基本、コンプライアンスを説明できる。

授 業 計 画

第1回	薬の作用様式と作用機序	小原 真美
第2回	薬物動態	小原 真美
第3回	自立神経	小原 真美
第4回	呼吸器作用薬（COPD、誤嚥性肺炎など）、感染症	ハサン アリフ ウル
第5回	消化器作用薬	ハサン アリフ ウル
第6回	鎮痛・抗炎症薬と麻薬、抗アレルギー薬	小原 真美
第7回	代謝治療薬（糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症治療薬）	ハサン アリフ ウル
第8回	利尿剤、泌尿器作用薬	小原 真美
第9回	循環器疾患関連治療薬	ハサン アリフ ウル
第10回	睡眠薬、抗不安薬、抗てんかん薬	小原 真美
第11回	脳血管疾患関連治療薬	ハサン アリフ ウル
第12回	パーキンソン病・アルツハイマー病治療薬	ハサン アリフ ウル
第13回	抗精神病薬、抗うつ薬、ADHD治療薬	小原 真美
第14回	抗悪性腫瘍薬	ハサン アリフ ウル
第15回	フレイル、サルコペニア、ポリファーマシーなど	ハサン アリフ ウル

評価方法

進級試験を100点満点として60点以上を合格とする。

教科書

「リハベーシック 薬理学・臨床薬理学第2版」 内山靖・藤井浩美・立石雅子 医歯薬出版株式会社 2024年

参考図書・文献

「機能・活動・参加とQOLを高めるリハビリテーション薬剤」 若林秀隆 じほう 2019年
「薬がみえる Vol.1～4」 メディックメディア

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

復習として参考図書の使用を推奨。授業中に出题された問題については説明できるようにしておくこと。

科目名	多職種連携論 II						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

授業概要

講義と演習を通して臨床現場における多職種連携の在り方や関わり方を学修します。

学修到達目標

1. 対象者の課題を理解し、他職種と共有することの重要性が理解できる。
2. 他職種と協働しながら、理学療法士の視点で課題の解決に向けて行動することの重要性が理解できる。

授 業 計 画

- 第1回 多職種の理解と多職種連携の在り方①
- 第2回 多職種の理解と多職種連携の在り方②
- 第3回 医療施設における多職種連携①（講義）
- 第4回 医療施設における多職種連携②（演習）
- 第5回 介護保険施設における多職種連携①（講義）
- 第6回 介護保険施設における多職種連携②（講義）
- 第7回 在宅における多職種連携①（講義）
- 第8回 在宅における多職種連携②（演習）
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

科目名	社会保障論						
担当講師	上田大介						
実務経験の概要	社会福祉士、医療施設・福祉関連施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

社会保障制度の意義、目的、制度の概要を理解し、理学療法士として知っておくべき知識を身につける。

学修到達目標

1. 社会保障制度の対象や制度の概要について理解する。
2. 社会保障制度と理学療法士の関わりについて理解する。
3. 医療保険や介護保険でのリハビリテーションについて患者に説明することができる。

授 業 計 画

- 第1回 ガイダンス（授業概要・スケジュール説明）・社会保障の概念・対象・理念①
- 第2回 社会保障の概念・対象・理念②
- 第3回 医療保険制度の概要①
- 第4回 医療保険制度の概要②
- 第5回 生活保護制度の概要①
- 第6回 生活保護制度の概要②
- 第7回 労災保険制度の概要
- 第8回 雇用保険制度の概要
- 第9回 障害者福祉制度の概要
- 第10回 児童福祉制度の概要
- 第11回 介護保険制度の概要
- 第12回 介護保険で提供されるサービス①
- 第13回 介護保険で提供されるサービス②
- 第14回 年金制度の概要①
- 第15回 年金制度の概要②

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

社会保障（中央法規出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

必要に応じて演習やグループワークを取り入れる予定。講義予定については、随時変更の可能性有り。

科目名	地域生活環境論						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士。医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義/実技/実習						

授業概要

理学療法の対象となる人々が地域で生活するための生活環境の現状や課題を理解し、生活環境整備する過程を学ぶ。

学修到達目標

1. バリアフリー・ユニバーサルデザイン化による地域環境の現状と課題を述べることができる。
2. 社会制度と生活環境の関わりを述べるができる。
3. 生活環境の概念・評価・整備について理解し、演習で実践ができる。

授 業 計 画

- 第1回** 生活環境の概念(構成する要素、ICFとの関連 理学療法との関連性)
- 第2回** 生活環境とICF
- 第3回** 生活環境の評価
- 第4回** 生活環境と社会保障制度
- 第5回** 国内の交通機関の状況
- 第6回** 屋内環境調査 (演習)
- 第7回** 屋外環境調査 (演習)
- 第8回** まとめ
- 第9回**
- 第10回**
- 第11回**
- 第12回**
- 第13回**
- 第14回**
- 第15回**

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 (医学書院) リハビリテーションテキスト生活環境学 (メディカルビュー)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は授業の進行状況を勘案して適時変更となることがあります。